

## 特集

生協産直は  
酪農の危機を救えるのか？

2023年2月14日、参議院議員会館講堂において「酪農・畜産の危機は国民の“食”の危機！農を守ることは命を守ること 一日本から畜産の灯を消すな」という院内集会が開催されました。ここでは酪農家たちから、生乳を廃棄せざるを得ないことや、生まれたての子牛の息を止めなければ経営できないことなど、深刻な現状が報告されました。しかし主流メディアの多くは、このような実態を報道していないため、この事実を知らない人が多いのではないのでしょうか。

酪農によって生産される牛乳は多くの生活協同組合が結成されるきっかけになった食品であることから、この酪農の危機を生協産直で乗り越える方法があるのかを、本項では考えるきっかけにしたいと思います。特集を組みました。

まず、上記院内集会で話された内容について、農民運動全国連合会にお話を伺い、生産者団体の現状をお聞きしました。次に生協産直を問い直すために、全国に生協が展開されるきっかけとなった、生活クラブ生協の立ち上げについて小澤祥司氏にご寄稿いただきました。生活クラブ設立のきっかけも牛乳であったことから、生協産直を再考する上で重要な要素があると考えられます。そして現在も生協産直を続けている大山乳業農業協同組合、東日本大震災・豪雨災害（2019年

台風19号ほか）・新型コロナウイルス感染症感染対策禍・飼料を含む生産資材の高騰といった難局続きの厳しい酪農経営を強いられてきたみやぎ生協産直「めぐみ野」の角田丸森生産組合へのインタビュー取材を実施し、酪農家から見た生協産直の現状について語っていただきました。

「くらしと協同を訪ねて」のコーナーでは、酪農ではないですが、生産者と消費者が協力し合って食品表示を創ろうという市民運動に取り組む「OK シードプロジェクト」を取材させていただき、生産者、消費者そして流通業者の理解と協力の必要性を述べてくださっていますので、こちらも参考にいただければと思います。

かつて食品添加物や農薬について自分たちで情報を集め、政府によって決められた基準による食品表示ではなく、生産者と消費者の信頼関係によって食生産と安全を守ってきた生協産直の歴史を、今こそ見直し、今の時代に合った形で再構築していくことが求められているともいえるのではないのでしょうか。

（本研究所理事・研究員 青木 美紗）